

第2回 山武地区地域協議会 次第

日 時 令和5年8月28日（月）

午前10時から

場 所 城西国際大学 本部棟8階会議室

1 開 会

2 報 告

- (1) 第1回山武地区地域協議会の記録（案）について
- (2) 「県立学校改革推進プラン」に基づく再編内容（山武地区に所在する県立高校）について
- (3) 「県立学校改革推進プランに係る評価」における成果と課題（山武地区に所在する県立高校）について

3

議 事

- (1) 山武地区に所在する県立高校の在り方について
- (2) その他

4 報告・連絡

5 閉 会

【配布資料】

- 資料1 「県立学校改革推進プラン」に基づく再編内容
（山武地区に所在する県立高校）
- 資料2 「県立学校改革推進プランに係る評価」における成果と課題
（山武地区に所在する県立高校）
- 資料3 山武地区地域協議会 委員名簿
- 資料4 山武地区地域協議会 設置要綱
第2回出席者名簿
第2回座席表

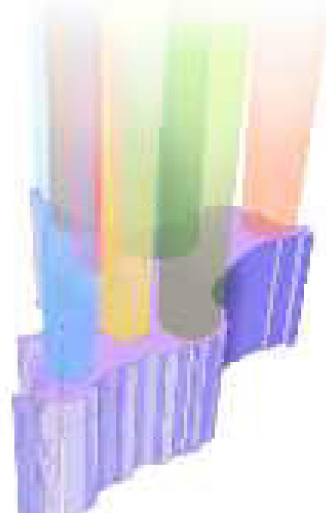
【参 考】

- 1 県立松尾高校 学校案内
- 2 県立成東高校 学校案内
- 3 県立東金高校 学校案内（全日制・定時制）
- 4 県立東金商業高校 学校案内
- 5 県立大網高校 学校案内
- 6 県立九十九里高校 学校案内



県立学校改革推進プラン

第 1 次実施プログラム



平成 2 4 年 3 月
千葉県教育委員会

3 社会のニーズに対応した教育

(1) 単位制の導入

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
成 東	28年度	普通科 理数に関する学科	・単位制を導入

【再編の内容】

- ・一人一人の生徒の興味・関心などに対応した学習を進め、個性の伸長を図り、幅広い進路選択を可能とするため、**成東高校に単位制を導入**します。

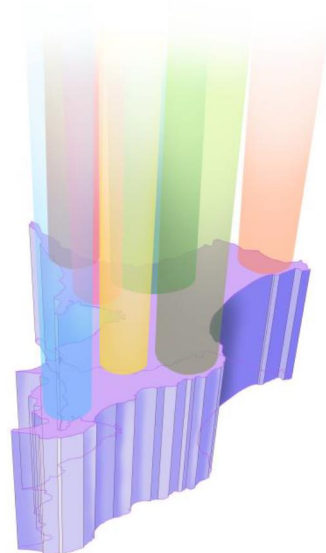
【教育内容等】

- ・学期毎の単位認定や短期集中講座の開設などを実施するとともに、多様な選択科目を設置し、生徒の適性・能力や進路等に応じた教育課程を編成します。
- ・ガイダンス機能を強化し、生徒が自ら目標を設定し、実現できるような取組を行います。
- ・学校間連携を進めるとともに、大学での学修等、学校外での学修の単位認定制度などの活用を検討します。



県立学校改革推進プラン

第3次実施プログラム



平成 2 8 年 3 月
千葉県教育委員会

(3) グローバル化に関する学びの導入

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
松 尾	28年度	普 通 科	・グローバル化に関する学びを導入

【再編の内容】

- ・グローバル化の進展など社会の変化を踏まえ、郷土と国を愛する心を育むとともに、世界を舞台に活躍できるグローバル人材を育成するため、松尾高校にグローバル化に関する学びを導入します。

【教育内容等】

- ・地域の実情や学校、生徒の実態等を踏まえ、その特色を生かしつつ、グローバル化に対応した教育課程や教育内容、指導方法の工夫・改善について研究を行います。
- ・学校、家庭、地域が一体となって、グローバル人材を育成する学習環境を構築します。
- ・外国人講師やＩＣＴ等を活用して、外国語を使う機会を増やします。
- ・生徒が留学しやすい環境を整えます。
- ・海外高校との留学生交流等、国際交流を推進します。

2 職業系専門学科・コース

(1) 農業に関する学科の学科再構成

対象高校	実施年度	備 考
農業に関する 学科設置校	30年度	・農業に関する学科を、次の6学科に再構成 - 園芸科：基礎から幅広く農業を学ぶ学科 - 農業科：園芸科の学びに加え動物の飼育等も学ぶ学科 - 食品科学科：食品の加工・製造・流通等を学ぶ学科 - 土木造園科：農業土木と造園の知識と技術等を学ぶ学科 - 畜産科：家畜の飼育の知識と技術等を学ぶ学科 - 生物工学科：動植物のバイオテクノロジー等を学ぶ学科

【再編の内容】

- ・農業に関する各学科について、中学生や保護者、中学校関係者等にわかりやすい学科体系及び名称とするため、学習内容に基づいて次のとおり学科名の変更など学科再構成を行います。

高校名	現在の学科	→	再構成
流 山 高 校	園芸科	}	園芸科
	生活科学科		
成 田 西 陵 高 校	生産技術科	}	園芸科
	生活科学科		
	環境建設科	→	土木造園科
	生産流通科	→	食品科学科
下 総 高 校	生産技術科	→	園芸科
多 古 高 校	生産流通科	→	園芸科
旭 農 業 高 校	畜産科		(変更なし)
	生産技術科	}	園芸科
	生活科学科		
	食品流通科	→	食品科学科

高校名	現在の学科	→	再構成
大 網 高 校	生産技術科	}	農業科
	農業経済科		
	食品工業科	→	食品科学科
	生物工学科		(変更なし)
茂 原 樟 陽 高 校	生産技術科	→	農業科
	生産流通科	→	食品科学科
	緑地計画科	→	土木造園科
鶴舞桜が丘高校	食とみどり科	→	園芸科

- ・薬園台高校、清水高校及び上総高校における農業に関する学科については、現行の学科名とします。

【教育内容等】

- ・学科の再構成に当たっては、農業に関する学科を設置するすべての学校において、現状の学習内容を継承しつつ、基礎学力の定着に向けた取組や進学への対応など、必要に応じて教育課程の見直しを行います。
- ・各校の特徴を生かした農業教育を展開するとともに、6次産業化など農業施策と整合した教育活動に積極的に取り組みます。
- ・各校が、農業教育の拠点校である茂原樟陽高校や農業中心校の実践で得られた成果を共有するとともに、農業高校を支援する組織等の協力を得て、積極的に関係機関との連携による教育活動を実施し、県全体の農業教育の底上げを図ります。
- ・地域や学校の実態を踏まえ、魅力ある学校づくりを推進します。

「県立学校改革推進プラン」再編対象校に係る成果と課題について

1 第1次実施プログラムの概要（平成24年3月策定）

対象高校	実施年度	設置学科	備 考	成果と課題（○成果、●課題）
千葉女子	26年度	普通科 家庭に関する学科	・普通科に教員基礎コースを設置	○大学職員による特別授業や小中学校等での体験実習はコース選択者に好評で、保護者の満足度も高い状況です。 ○学びを通して、自身のキャリアについて真剣に考えることができ、勤労観、職業観の育成に寄与していると考えられます。 ○コース選択者が中学校を訪問しコースの紹介を行うなど、効果的な広報活動を展開しています。 ●更なる充実のためには、小中学校や大学等の関係機関との連携をより深めることが重要です。
安 房	26年度	普通科	・教員基礎コースを設置 ・英語科は、募集を停止（25年度）	
東 葛 飾	26年度 28年度	普通科	・医歯薬コースを設置 ・新たに県立中学校を併設	【医歯薬コース】 ○進路目標が明確な生徒が多く、積極的に学習に取り組んでいます。 ○コースでの学びにより、医療従事者としての適性を確認することができるとともに、人のために働くことの素晴らしさや奉仕の心が涵養されました。 ●医歯薬コースについて、医学部に入学するための受験対策を行い、医学部を設置する大学を紹介するコースであると捉えている生徒や保護者が若干見受けられることから、医歯薬コースの役割について、より詳細な広報が必要です。 【県立中学校3年目評価】 ○中高一貫教育校の取組について、生徒、保護者の満足度が高く、教育的ニーズに応えています。 ○中学校3年間での生徒の変化として、日々の授業での「主体的・対話的で深い学び」や調べ学習により、コミュニケーション能力が伸長し、他者への思いやりの気持ちや自らを律する力が身に付きました。 ○中学校と高校の「リベラルアーツ講座」を受講したことで、教養を高めることができました。 ●中学校と高校との職員や施設の、円滑な連携に向けた取組の体系化が必要です。また、行事や部活動の更なる充実が検討課題です。 【県立中学校6年目評価】 ○中学校段階から探究の素養（資料作成能力、プレゼンテーション能力）やICT活用能力が醸成され、教養や本質を身に付けた深い学びを実現しました。 ○研究活動や研修等の取組を通じて、主体的なキャリア形成に繋げることができました。 ○中高の連携で豊かな人間性を育むとともに、ゆとりある中高接続で中高のコラボ授業等、特色ある学びを展開できました。 ●中学生の運動能力が県の平均に比べて低くなっています。 ●中高が連携した授業や学校行事の更なる充実が課題です。

千 葉 ※	20 年度	普通科	・ 新たに県立中学校を併設 ※ 千葉高校併設中学校設置に係る評価については、平成 21 年 12 月「県立高等学校再編計画」に係る前期分評価により実施したが、高校卒業時には評価を実施していなかったため、令和 3 年度に東葛飾高校併設中学校設置 6 年目評価に合わせて、再度評価を実施した。	【県立中学校 3 年目評価】 ○開校理念に沿い、公立の中高一貫教育校として、受験準備に偏したいわゆる受験エリート校とは一線を画した独自の教育を実践している。 ○海外への指向をより強く持った生徒が育つなど、開校理念が具現化されつつある。また、主体的な態度で学習に臨む生徒の割合が多いなど、千葉中学校での教育内容が千葉高校で成果として現れている。 ○異学年によって構成され、自ら課題を発見し探究する力を育てる学習などにより、主体的に学習に取り組む姿勢を育成し、個性や能力の伸長を図る教育を展開している。 ●異校種の交流が可能という併設型中高一貫校のメリットを生かすため、教育課程や学校行事上の更なる工夫、施設・設備の使用や整備の在り方等について検討が求められる。 ●今後も中学高校の円滑な接続に向け、生徒指導や授業方法の一層の工夫・改善に努める必要がある。 ●中高の人事交流や研修等、継続的な支援が必要である。 【県立中学校 6 年目評価】 ○中学校段階から生徒の主体性を育むとともに、知識の定着や理解の深化を図る学習に取り組んでいます。 ○語学研修や異文化学習、講演会等、主体的なキャリア形成に繋げることができました。 ○学校行事を中心に、中高の連携の交流を図ることで豊かな人間性を育むとともに、中高の一体感を醸成しています。 ●中高連携授業の取組等、6 年間の継続した学びの充実が課題です。
長 狭	26 年度	普通科	・ 医療、福祉コースを設置	【医療コース】 ○進路目標が明確な生徒が多く、積極的に学習に取り組んでいます。 ○医療現場には医師、看護師の他にも様々な職種があり、チームとして医療に取り組むことの大切さについての理解が進んでいます。 ●医療や福祉関係の進学や就職しか選択できないという認識が生じています。 【福祉コース】 ○進路目標が明確な生徒が多く、積極的に学習に取り組んでいます。 ○学習内容に対する満足度も高く、生徒のニーズに応えています。 ○資格を活かした就職や、より高い資格の取得を目指した進学など、社会の要請等に応えた人材を育成し、職業的自立に向けた能力や態度を育んでいます。 ●福祉の仕事については重労働等のイメージがありますが、やりがいのある仕事であることを、生徒に更に伝える必要があります。
柏 井	25 年度	普通科	・ 国際コミュニケーションコースを設置 ・ 英語科は、募集を停止（25 年度）	○コースの選択を前提に入学している生徒もいるため、全体として学習への取組はよく、学習内容に対する満足度も高いなど生徒のニーズに応えたコースとなっていると言えます。 ○卒業後、学習内容に関連した大学・専門学校・企業等へ進む生徒もおり、興味・関心を育みつつ、社会人としての技能や職業観の育成に寄与していると考えられます。 ●コースの学習内容や進路の状況などが十分理解されていないという中学校からの指摘があり、今まで以上に丁寧に広報に努めていく必要があります。

佐 倉	26 年度	普通科 理数に関する学科	・理数に関する学科を設置	○課題研究を通して、生徒は課題解決能力やプレゼンテーション能力を身に付けています。 ○大学や企業との連携により、先進の学びや技術について触れる機会を得ています。 ●理数科の活動内容の広報について、特に、学びの利点や特色をさらに明確にする必要があります。
茂原樟陽	27 年度	農業に関する学科 工業に関する学科	・農業教育の拠点校	○農業大学校と県内農業関係高校が連携し、農業生産工程管理（GAP）教育の推進に取り組んでいます。 ○千葉県園芸協会との連携により、農業法人へ就農する生徒が増加しています。 ●拠点校と他の農業科設置校とのネットワークが構築されていますが、先進農家研修等による将来の農業スペシャリストの育成、新たな農業教育の手法に関する研究・開発等については、一部の学校にとどまっています。
千葉工業	25 年度 28 年度	工業に関する学科	・工業教育の拠点校 ・コンソーシアムを設置 ・理数工学科を設置	【工業教育の拠点校】 ○工業科設置校全体で資格取得に向けて足並みを揃えて取り組むなど、工業高校全体のレベルアップを目指す雰囲気が醸成されています。 ○拠点校がスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）に指定され、拠点校の生徒・職員の研究活動に対する意欲が向上しています。 ●拠点校として取り組む具体的な内容について、外部に対してわかりやすく示す必要があります。 ●工業教育の底上げを行うために必要となる先進的な取組事例に関する情報を、他県からも積極的に収集し、県内の工業科設置校と共有することが必要です。 【コンソーシアム】 ○コンソーシアムを通じて大学、企業等との連携が深まり、活発に工業高校について意見交換が行われ、工業高校の取組に対する理解が進んでいます。 ●コンソーシアムの取組内容が、参加者以外に認知されていない現状があり、中学生やその保護者、県内企業等に対する積極的な広報が必要です。 【理数工学科】 ○1、2 学年で電気や機械、工業化学などの工業分野を広く学ぶことによって、工業に関する研究目標を持ち、3 学年の課題研究では、生徒個々が目指す進学先に向けた積極的な取組が見られました。その結果、卒業生 36 人のうち 72.7%（26 人）が大学・短大へ進学しました。 ○学校設定科目「産業工学研究」では、土曜授業を通して、大学や専門学校の講師による専門的な講義を受講したことで、生徒一人一人が、進学に向けて必要な研究課題を発見することができました。 ○進学を重視し、国公立大学受験や一般入試に向けたカリキュラムを編成し、一般入試の他、推薦入試やAO入試に対応しました。 ●タブレット端末などのICTを活用した教育に十分対応できるよう職員の更なる指導力向上が必要です。また、学校設定科目「産業工学研究」では、通常では経験できない貴重な講義内容であることを十分に理解させ、周知することが必要です。

松戸向陽	25 年度	普通科 福祉に関する学科	- 福祉教育の拠点校 - 普通科に福祉コースを設置	【福祉教育の拠点校】 ○千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会（以下「福祉教育部会」という）を活用して、各種情報提供や、福祉教育のレベルアップに向けた教員相互の研究授業による研修等、拠点校としての取組が進んでいます。 ●小学校や中学校などへの福祉教育に関する啓発活動や、地域との連携強化の在り方等について検討していく必要があります。 【福祉コース】 ○福祉に関する興味・関心の高い生徒や介護を身近なものとする生徒が多く、資格取得への意欲も高くなっています。平成 27 年度はコース選択者全員が介護職員初任者研修修了者の資格を取得しました。学習内容に対する満足度も非常に高く生徒のニーズに据えていると言えます。 ○資格を活かした就職や、より高い資格の取得を目指した進学など、社会の要請等に応えた人材を育成し、職業的自立に向けた能力や態度を育んでいると言えます。 ●中学校がきめ細かい情報提供を望んでおり、今まで以上により確実に広報に努めていく必要があります。
小 見 川	27 年度	普通科	福祉コースを設置	○学習内容に対する生徒の満足度が高く、ニーズに据えています。 ○資格を活用した就職や、より高い資格の取得を目指した進学など、社会の要請に応えた人材を育成し、職業的自立に向けた能力や態度を育んでいます。 ●福祉コース選択に当たり、社会福祉の理念と意義を理解させる必要があります。
成 東	28 年度	普通科 理数に関する学科	単位制を導入	○多様な選択科目に対する生徒の満足度が高く、生徒の教育的ニーズに据えています。特に新たな選択科目である「つくもタイム」では、約 7 割と生徒の高い満足度を得ています。 ○「つくもタイム」においてキャリア教育を充実させるなど、生徒一人一人の進路希望に応じた科目選択が可能となっています。 ●3 年次での選択科目は多様であるが、1・2 年次では選択科目が少ないので、教育課程を工夫・改善する必要があります。
館山総合	27 年度	工業に関する学科 商業に関する学科 水産に関する学科 家庭に関する学科	- 観光の学びを導入 - 海洋科の栽培コースを栽培環境コースに転換	【観光の学び】 ○生徒は、地域の方々とのつながりや安房地域の観光資源の豊富さを意識するようになりました。 ○観光業界に興味をもつ生徒が増えました。 ●生徒、保護者共に、入学前の学びへの認知度が低い状況があります。 ●学科によって、学びに取り組みやすい学科とそうではない学科があり、中には学びが定着していない生徒がいます。 【栽培環境・海洋環境コース】 ○コースの学びを通して、県内の企業を就職先として考える生徒が増えています。 ○充実した学習を通して、生徒はコースの学習内容に興味をもち、積極的に取り組むようになりました。 ●広報が学科の説明までで、コースの内容までの周知が不足しています。
銚子商業	27 年度	商業に関する学科 水産に関する学科	海洋科の海洋科学コースを海洋環境コースに転換	

銚子	26 年度	普通科	・防災の学びを導入	○災害発生時のメカニズムやその際の対処方法に関する知識を習得しました。 ○生徒は学びの重要性や必要性について十分に認識していることから、取組状況も良好であり、学びに対する満足度も高くなっています。 ○防災宿泊研修を通して災害時の避難所運営に興味を持つ生徒が多く見られ、生徒に地域や社会との関わりを持たせることで、生徒の社会参画に寄与しています。 ●防災教育を行っている学校として、地域の認識を得るためのより一層の広報が必要です。
泉 天 羽	24 年度	普通科	・地域連携アクティブスクールを設置	【学び直し（学ぶ意欲に応える学習指導）】 ○生徒・保護者対象のアンケート調査では、学び直しに対する期待は大きく、地域連携アクティブスクールを志願した理由として「学び直しがある」という回答が最も多く、また学校生活においても「学び直しの授業」に対する満足度は、生徒・保護者ともに非常に高くなっています。 ○中学校対象のアンケート調査においても、良いと思う特色として「学び直しができる学校」とする回答が最多となりました。 ●3年間を見通した実施方法や教材について研究する必要があります。 【実践的なキャリア教育】 ○生徒・保護者対象のアンケート調査では、充実した進路指導に対して肯定的でした。 ●一方で、志願理由や満足度の数値については、必ずしも十分な結果とはなっていません。 ○中学校対象のアンケート調査では、「地域と連携し、キャリア教育を行っていることで、生徒の心が育っているように思った」、「地域連携のインターンシップの一層の充実拡大に期待する」などの意見をいただきました。 ●今後は、現在実施しているキャリア教育の更なる充実を図るとともに、より効果的なキャリア教育の在り方や実施状況の広報などについて検討する必要があります。 【地域との連携】 ○生徒・保護者対象のアンケート調査では、「地域の方々と触れ合う機会があり、とても良かった」、「地域の方と交流する機会が増え、コミュニケーション能力が高めることができた」、「これまで以上に地域の方々と触れ合う機会を設けていただきたい」などの意見がありました。 ○中学校対象のアンケート調査では、「地域の学校として多方面と連携して様々な取組をしているので、魅力的だと思う」などの意見をいただきました。 ●今後、現在の地域連携の取組について内容の吟味を図り、「地域の教育力の活用」と「地域への貢献」を踏まえた教育活動の在り方について引き続き検討する必要があります。 【独自の入学者選抜】 ○中学校対象のアンケート調査では、入学者選抜について「現状のままでよい」とする回答が8割を超える結果となりました。 ●当面は、現状の入学者選抜を維持しつつ、生徒の状況等を見守りながら、地域連携アクティブスクール設置の趣旨を的確に踏まえた入学者選抜の在り方について、引き続き検討する必要があります。 【支援体制】 (1) キャリア教育支援コーディネーター

				○キャリア教育支援コーディネーターの配置により、インターンシップ拡充のための企業開拓やインターンシップ実施の際の事前・事後指導、地域との連携による教育活動の展開などが進められ、実践的なキャリア教育の展開が可能となっています。 ●地域の教育力を活用した実践的なキャリア教育を推進するためには、コーディネーターの継続的な配置と運用のための予算確保が必要となります。 (2) スクールソーシャルワーカー ○スクールソーシャルワーカーの配置により、子どもと親のサポートセンターや市役所、児童相談所、発達障害者支援センター等の関係機関との連携が深まり、生徒の抱える課題に対して、より適切な対応が可能となっています。 ●困難を抱える生徒に対して、スクールソーシャルワーカーの配置が効果的であることは既の実証済みであり、継続的な配置と運用のための予算確保が必要となります。 (3) 学習サポートボランティア ○学習サポートボランティアからの意見聴取では、貴重な経験となっていると肯定的です。 ●一方で、授業での補助に当たって授業担当者との緊密な連携体制の構築が必要であるなど、改善を求める意見もありました。 ●生徒へのきめ細かい指導を可能にするとともに、ボランティアとして参加している学生にとっても学校現場を知る貴重な経験となることから、継続して実施していく必要がありますが、ボランティアからの意見聴取を踏まえ、実施方法の改善が課題となっています。
大 原	27 年度	総合学科	・普通科及び職業系専門学科を改編し総合学科を設置 ・大原高校の健康スポーツ科は、募集を停止（25 年度）	○総合学科における幅広い科目設定により、学習指導、生徒指導、進路指導等において、生徒個々のニーズに応じた対応が実践できています。 ○統合により、部活動数や部員が増加し活発な活動が行われるようになりました。 ●周知・広報活動を行う際、現在の教育活動における総合学科の特徴を整理し、わかりやすい言葉で説明する工夫が必要です。大学進学から就職まで生徒の多様なニーズに応じた学校であることを中学生や保護者に理解してもらうことが重要です。

2 第2次実施プログラムの概要（平成26年3月策定）

対象高校	実施年度	設置学科	備 考	成果と課題（○成果、●課題）
成田国際	27年度	普通科 国際関係に関する学科	・グローバルスクールを設置	○SGH指定校となり、グローバル人材育成のための研究開発をしています。 ○グローバルスクールの取組について、生徒、保護者の満足度も高く、ニーズに応えています。 ●SGH課題研究などのノウハウをSGHの指定が終わった後、どのように継承していくかが課題です。
木更津	29年度	普通科 理数に関する学科	・理数に関する学科を設置	○令和元年度、全国高等学校総合文化祭自然科学部門地学部門で奨励賞を受賞するなど、各種コンテストで高い評価を得ました。 ○理科・数学への学習意欲が高い生徒が多く、自ら積極的に学習を進め、学力を伸ばし、理系の難関大学への進学を目指す生徒もいます。 ●学科内には、学習習慣が確立していない生徒がおり、学力面で差があります。上位層を更に伸ばす指導とともに、全体的なレベルアップに向けて組織的な取組が必要です。
佐倉西	29年度	普通科	・福祉に関するコースを設置	○近隣の福祉施設との連携により、充実した実習や体験ができ、福祉教育に対して全ての生徒、保護者が肯定的に評価しています。 ○コース選択者全員が介護職員初任者研修の資格を取得しています。 ●将来を長い期間でとらえた場合、介護職を選ぶ可能性はありますが、卒業後すぐに介護職を選ぶ生徒が少ない状況にあります。なお、進路に対して、コース選択者の95%が「進路の幅が広がった」「目指す進路が決まった」など、肯定的な評価をしています。
小金	28年度	総合学科	・普通科を改編し総合学科を設置	○質の高い少人数制授業や高大連携、キャリア教育を推進することで、生徒の多様な進路ニーズに的確に応えています。 ○将来の進路を見据えた様々な学びの提供により、目指すべき進路が明確になり、一般受験で難関校を目指すようになりました。 ●進学を重視した総合学科として、「課題研究」、「産業社会と人間」のカリキュラムを確立し、進路指導に適切に結び付ける必要があります。
鶴舞桜が丘	26年度	農業に関する学科 商業に関する学科	・食とみどり科に緑地管理コースを設置	○高校卒業後の進路目標が明確で、積極的に学習に取り組む生徒が多いです。学習内容に対する満足度も高く、生徒のニーズに応えています。 ○ゴルフ場等の地域観光産業に就職する生徒がおり、緑地管理についての興味や関心を育みつつ、社会人としての技能や職業観の育成に寄与しています。 ●今まで以上にゴルフ場等の地域観光産業への就職を増やす必要があります。
船橋古和釜	27年度	普通科	・地域連携アクティブスクールを設置	○学び直しの授業に対する生徒の満足度が高く、ニーズに応えています。 ○就業体験・インターンシップなどの体験学習に対する満足度も高く、充実したキャリア教育が実施され、自立した社会人の育成につながっています。
流山北				●「中学校で能力を発揮できなくても、高校では頑張ろうとする意欲を受け止める学校」を理念としていますが、このことを確実に周知する必要があります。

3 第3次実施プログラムの概要（平成28年3月策定）

対象高校	実施年度	設置学科	備 考	成果と課題（○成果、●課題）
我 孫 子	30 年度	普通科	・教員基礎コースを設置	○生徒が主体的に議論したり発表したりする機会が増え、授業や部活動、学校行事等に積極的に参加するようになりました。 ○学習ボランティア等では、近隣小・中学校から喜んでいただいています。 ●他の教育活動や部活動に影響が出るため、学校全体での協力体制が必要です。 ●1年間を1クールとして計画しているため、3年間を見据えての計画を立てることが難しく、授業内容が重複してしまうことがあります。
君 津	30 年度	普通科	・教員基礎コースを設置	○高校生活を前向きに過ごしている生徒が多く、特にグループワークの授業では、教員基礎コースでの学びを生かし、積極的にグループメンバーに関わろうとする場面が見られます。 ○活動への意欲が高く、コースを選択している生徒の多くが部活動において部長を任されるなど、様々な場面で学校の中心となって活躍しています。 ○小・中学校での体験活動やボランティア活動等について、高い評価をいただいております、今後の連携も期待されています。 ●学校全体でコース選択者をバックアップする体制を更に整える必要があります。 ●生徒・保護者共に授業内容等に関する満足度は高くなっていますが、進路実現につながる指導を目指す必要があります。
市 川 南	31 年度	普通科	・保育基礎コースを設置	○コース選択者の生徒全員が、市川南高校にコースがあるから選択したと回答しており、高い目的意識を持った生徒が入学しています。 ○授業内容、生活指導、先生方とのコミュニケーション等、生徒の満足度が非常に高いです。 ○市のボランティアへの参加や、近隣の幼稚園、保育園などの実習を通して地域との交流を深めることができ、授業等について協力体制を得られました。 ●コロナ禍における実習の実施や、専門教員の配置、全教員のコースへの理解が課題です。 ●コースを希望する生徒が設備等の関係からコースに全て受け入れられない場合があり、定員の拡充が課題です。
松 尾	28 年度	普通科	・グローバル化に関する学びを導入	○異文化理解力やコミュニケーション能力が著しく向上したことで、国際交流を行う素地ができました。 ○SGHで実施したプレゼンテーションなど、生徒の活躍について高い評価を得ています。 ●SGHの指定が終わった後、異文化理解やコミュニケーション能力の育成のための手段や方法を、どのようにして継承していくのが課題です。また、グローバル化に関する学びの取組について、2年生以降になるとグローバルエイジング選択者などの一部の生徒しか取り組めないことから、学校全体で実施する取組を充実させることが必要です。
匝 瑳	29 年度	普通科 理数科	・普通科に国際に関するコースを設置 ・英語科は、募集を停止	○近隣諸国である中国・韓国の文化や歴史を学ぶことにより、国際的な視野を広げることができ、卒業後の進路にも影響を与えています。 ○「話す力」の向上を重点に指導してきたので、当初の目標は、十分に達成できました。 ●大学に進学する生徒が72.8%を占める進学校であるため、大学受験科目以外の授業に対して、興味関心が低い傾向があります。 ●選択者数が伸び悩んでいる理由の1つとして、日中関係や日韓関係など、外交関係の変化が生徒のコース選択に大きな影響を与えていることが考えられます。

農業に関する学科設置校 流山成田西陵下総多古旭農業大網茂原樟陽鶴舞桜が丘	30 年度	・農業に関する学科を、次の 6 学科に再構成 園芸科：基礎から幅広く農業を学ぶ学科 農業科：園芸科の学びに加え動物の飼育等も学ぶ学科 食品科学科：食品の加工・製造・流通等を学ぶ学科 土木造園科：農業土木と造園の知識と技術等を学ぶ学科 畜産科：家畜の飼育の知識と技術等を学ぶ学科 生物工学科：動植物のバイオテクノロジー等を学ぶ学科		○学科名から教育内容がわかるようになり、学習内容を理解した上で入学する生徒が多くなっています。 ○拠点校（茂原樟陽高校）を中心とした G A P に重点を置いた、加工や販売までを視野に入れた教育を展開するようになりました。 ○家庭科（食品・保育）など、他教科と連携した横断的な教育が行われています。また、普通科を併置している学校では、農業選択科目を設置するなど、他学科との連携が行われるようになりました。 ○先進農家や農協、農業事務所などと連携した活動を進めています。 ●今後も都市部や郡部などの地域性を踏まえた更なる学科再構成の検討が必要です。 ●アグリサポーターズちばの運営など、拠点校が中心となって行っている活動を他校にも積極的に拡充することで、学びの内容を更に充実させていくことが必要です。
下 総	30 年度	自動車科 園芸科 情報処理科	・航空車両整備科を自動車科に再構成 ・生産技術科を園芸科に再構成（農業に関する学科の学科再構成を参照） ・情報ビジネス科を情報処理科に再構成（商業に関する学科の学科再構成を参照）	○学科名変更前の航空車両整備科では、航空機関係の学びをイメージして入学する生徒がいましたが、再編後、学科名と学習内容が一致していることから、自動車への興味・関心の高い生徒が入学しており、これまで以上に意欲的に授業に取り組んでいます。 ○2 か年にわたって「原動機」を履修することで、実際に使用されている自動車等の機材を教材とした実験・実習を行い、理論と関連させた学習により理論が目に見える形となり、工業の各分野の知識・技術の確実な習得が図られ、これまで以上に自動車への理解を深化できるようになりました。 ○地域産業や産業振興施策との整合性を踏まえ、工業高校の配置やわかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成等を実施し、工業教育の充実を図ります。 ●整備士以外の取得可能な資格や進路先など、多様なキャリアにも対応できることを更に広く周知していく必要があります。 ●下総高校は、運輸省（現：国土交通省）に指定された「自動車整備士第一種養成施設」であるため、教育課程の編成や授業展開に制約がある中で、自動車を教材の核として、工業全般を幅広く学習できる授業展開の工夫が必要です。
商業に関する学科設置校 流山千葉商業成田西陵下総君津商業	30 年度	・商業に関する学科を、次の 2 学科に再構成 商業科：マーケティング・ビジネス経済・会計等を幅広く学ぶ学科 情報処理科：ビジネス情報を中心に学ぶ学科		○学科名の統一により学びがわかりやすくなりました。 ○出前授業や体験授業などを実施することで、中学生に体験的に商業科及び情報処理科の学びを理解してもらえました。 ●地域や学校の状況を踏まえてスペシャリスト育成に対応した教科指導及び進路指導の充実がより一層期待されます。

我孫子東	31 年度	普通科	・福祉コースを設置	○生徒の意識は「私達がやってあげたい」「困っている人を助けたい」でしたが、学ぶ中で「福祉を必要としている人とコミュニケーションをとる中で、楽しい時間を共有する」という意識に変わり、学び方が変わりました。 ○福祉コースで学びたいと希望する中学生や、近隣の福祉施設からボランティアに来て欲しいという問い合わせも増えており、我孫子東高校の福祉コースが地域にも浸透してきています。 ●外部講師との連絡調整が不十分であったため、計画していた授業内容にズレが生じてしまうことがありました。
幕張総合	31 年度	総合学科 看護科	・普通科を改編し総合学科を設置	○系列ごとに設置された選択科目の中から、多様な選択ができ、一人ひとりの進路や適性に合った時間割を作成することにより、進路の目標に向かって、自ら進んで学習できるようになりました。 ○1 年次生を対象に海浜幕張駅周辺に立地する 17 の企業等から講師を招き実施したキャリアセミナーにおいて、実行委員の生徒は、外部講師に対する接遇等を通じて、社会人として必要な積極的な態度、ビジネスマナー等を身に付けようとしていました。また、生徒の主体性を引き出すため、生徒が教員とともに企画・運営に積極的に携わっていました。 ●高大連携や外部講師による特色ある講座の実施等、生徒の進路希望に応じたきめ細かな取組をより一層行う必要があります。 ●生徒の多様な進路希望に対応するため、生徒の興味・関心に応じた時間割の作成を支援するとともに、大学卒業後の就業までを見通した職業意識の高い人材を育成するため、個別かつ具体的なキャリア教育を推進する必要があります。
安 房	30 年度	普通科	・単位制を導入	○生徒が自己の進路実現を見据え、主体的に科目選択をすることにより、以前よりも個のニーズに応じた学びが展開されるようになっていきます。特に 3 年時では大学入試に必要な科目を手厚く履修できるようになっているため、学習意欲が向上しています。 ●一部の生徒に安易な科目選択や「減単位」履修（自習の時間を設定すること）が見られます。また、苦手科目を克服しようとせず、苦手科目の履修を回避する生徒も見られます
市原八幡	31 年度	普通科	・防災の学びを導入	○生徒は自らの身だけでなく、他人の身も守る方法を身に付けられています。 ○学校独自の教材と教育体制を整備しています。 ○日常生活における生徒の防災意識を高めることができたと同時に、教員の防災教育への意識を高めることができました。 ●理科や地理、家庭科、保健体育などといった教科との連携が上手くいけば、より充実した教育ができると考えられますが、現状は連携ができていません。 ●コロナ禍の影響により、2 年間の計画どおりに進めることができた学年がまだありません。また、中学校や外部団体との連携も不十分でした。

4 第4次実施プログラムの概要（平成30年3月策定）

対象高校	実施年度	設置学科	備 考	成果と課題（○成果、●課題）
千 葉 大 宮			・ 千葉大宮高校で学ぶ生徒の学習環境をより一層向上させるため、館山総合高校において、平成29年度から新たにスクーリングを実施している。	○生徒の通学に対する「負担軽減」に加え、少人数による個に応じたきめ細かな指導が行われていることから、生徒、保護者の満足度が高い結果となっています。 ○映像教材を活用した面接指導やNHK高校通信講座の視聴など、デジタル教材を活用し、レポート学習では扱えない学習内容を補充することにより、生徒の学習内容に対する理解が深まっています。 ●今後の通信教育に対するニーズを踏まえ、ICTを中心とした学習環境について、更なる研究が必要です。
成 田 北	R2 年度	普通科	・ 医療コースを設置	R4 評価中
四 街 道 北	R2 年度	普通科	・ 保育基礎コースを設置	R4 評価中
姉 崎	R2 年度	普通科	・ ものづくりコースを設置	R4 評価中
天 羽	R2 年度	普通科	・ 工業基礎コースを設置	R4 評価中
犢 橋	R2 年度	普通科	・ 福祉コースを設置	R4 評価中
船 橋 (定時制)	R4 年度	総合学科	・ 普通科を改編し総合学科を設置	R6 (R7) 評価予定
千 葉 工 業 (定時制)	R2 年度	工業科	・ 機械科、電気科を工業科に再構成	R5 評価予定
市 川 工 業 (定時制)	R2 年度	工業科	・ 機械電気科、建築科を工業科に再構成	R5 評価予定
木 更 津 東 (定時制)	R2 年度	普通科	・ 商業に関するコースを設置 ・ 商業科は募集を停止	R5 評価予定
佐 倉 南	R4 年度	普通科	・ 三部制定時制高校の設置 ・ 佐倉南高校全日制課程は募集を停止	R6 (R7) 評価予定